岩手県議会議員

中平ひとし

なかたい

県政報告

No.48
Oct.2025

あなたの声を
実現します

徹底現場主義!

県議会9月定例会における、決算特別委員会(10月14日~23日)で知事はじめ県執行部と議論を行った内容を、今回会報で紹介いたします。

また、10月10日の本会議で従前から事業化に向け取り組んできました国道281号案内～戸呂町口工区(仮称)下平トンネル築造工事の契約議案が可決され、トンネル本体工事が始まります。

安心・安全な地域を確立し、人口減少時代において持続発展できる社会を構築し、未来につなげていくことが、政治の責任と考えます。

その責任から目をそむけず、「徹底現場主義」を貫き、地域課題を解決し次世代に引き継ぐ地域を創ってまいります。今後ともご指導よろしくお願いします。

岩手県議会議員　中平(なかたい) ひとし

決算特別委員会総括質疑の内容について(抜粋)

■ 公共事業費について

【質問】令和7年度の国土強靱化等の予算の確保をどのように見込んでいるのか

【答弁】「第１次国土強靱化実施中期計画」が策定され、令和８~12年度における事業規模は20兆円強と、現在の15兆円程度を上回る。国に対し、地域事情の説明、施策の提案等、公共事業費の安定的・持続的な確保に努める。

■ 人口減少への対応

【質問】関係人口創出に係る県の今後の取組について。

【答弁】国の新たな目標設定を受け、県としてもこれまでの取組を一層強化し、関係人口拡大に向けた施策を推進する。県及び市町村の取組を整理し、施策の連携を強化・拡充し、市町村と協働した関係人口の拡大に取り組む。

■ 久慈港の活用について

【質問】「久慈港長期構想」実現に向けた今後の取組について伺う。

【答弁】ふ頭の再編やエネルギー産業拠点の形成等、港湾管理者が取り組むものと、養殖業の振興や賑わい空間の創出等、他の事業主体が取り組むものがある。県としては、港湾計画の改訂に向け検討を進めるとともに、その他の取組についても、関係者と連携し、長期構想に掲げたビジョンの実現に取り組む。

中平ひとし プロフィール

昭和46年久慈市生まれ、久慈市在住53歳。　平成15年に岩手県議会議員初当選、現在5期目。
岩手県監査委員、岩手県議会県土整備委員会委員長・議会運営委員会委員長・岩手県議会副議長を歴任。

■ 安心安全な地域づくりについて

【質問】激甚化・頻発化する災害対応として、再度災害の発生を抑止できる対策が必要。どのように事業展開していくのか伺う。

【答弁】「第1次国土強靱化実施中期計画」で、重点的に取り組む施策として、「防災インフラの整備・管理」や「防災力の一層の強化」など5つの施策を掲げている。激甚化・頻発化する自然災害に備えるため、再度災害防止に取り組むほか、地方単独事業も活用し、ハード対策とソフト施策を組み合わせた防災・減災対策や、災害に強い道路ネットワークの構築などに取り組む。

【質問】広域道路ネットワークである久慈内陸道路の今後の取組を伺う。

【答弁】国道281号久慈市案内～戸呂町口工区については、(仮称)下平トンネル築造工事の請負契約議案が議決された。

葛巻町内の区間は、9月に「(仮称)小屋瀬道路」の事業化検討を優先することを関係市町村長と共有。詳細ルート検討のため設計業務を発注。

引き続き、案内～戸呂町口工区の事業推進と、「(仮称)小屋瀬道路」のルート検討の精度を高め、産業の基盤となり、災害に強い道路ネットワークの構築に取り組む。

(仮称)下平トンネル
久慈側入口

【質問】医師不足・診療科偏在の中、久慈病院の医療提供体制は厳しい状況が続いている。久慈病院の現況に対する知事の所感と医療提供体制充実に向けた取組について伺う。

【答弁】久慈保健医療圏唯一の急性期病院として、昨年度は延べ8,000人を超える救急患者を24時間体制で受け入れ、圏域の医療の中核として大きな役割を果たしている。

県では、奨学金養成医師の県北・沿岸地域への配置の充実や関係大学への派遣要請等による医師確保を進め、久慈病院の医療提供体制の充実を図り、地域の医療ニーズに応えていく。

■ 浮体式洋上風力発電について

【質問】久慈市沖洋上風力発電は、県の発展に大きくつながる、重要な事業であり、知事の決意を伺う。

【答弁】久慈市沖は、大規模な浮体式洋上風力では全国で最も早く準備区域に整理された海域。現在、国内で11海域ある浮体式計画の中でも期待の大きいリーディングプロジェクトであり、国家プロジェクトとして国内外から投資や優れた技術を呼び込み、県全域の産業基盤構築につながる、重要な取組と認識。次期「岩手県海洋エネルギー関連産業創出ビジョン」の中心に位置付け、着実な実現に向け取り組む。

■ 一次産業の振興について

【質問】海業と地域資源、地域産業を連携させ複合的な展開を行うことで、各方面に経済効果が発生すると考えるが、県の見解を伺う。

【答弁】地域活性化に、海業を推進していくことが重要。新たに、種市漁港で計画策定が進められるなど、取組が着実に拡がっている。久慈地域では協議会で、海業のワークショップを実施。

今後も、海業への更なる理解醸成を図り、ビジネスモデル構築の成果を他地域にも展開し、定着させるなど、関係機関・団体と連携しながら、積極的に取り組む。

【質問】夏季の高温に対応した農作物への転換、新たな生産施設等への投資が大きな課題。今後の取組方針について伺う。

【答弁】品目ごとの「高温等の気候変動への適応策」を取りまとめ、技術対策の指導強化と、高温に強い農作物の品種開発等を進めている。

県北地域では、「ほうれんそう」について、ミスト装置の導入等による夏季の安定生産に取り組むほか、高温に強く、低コストな「露地ピーマン」の導入を進めている。持続的に生産活動に取り組むことができるよう支援していく。

久慈市内
ピーマン栽培状況

岩手県議会議員 中平(なかたい)ひとし県政報告紙 No. 48

【発行】中平ひとし事務所【発行者】中平ひとし

〒028-0052 岩手県久慈市本町1-5 TEL 0194-53-0111 FAX 0194-53-0136
HP：www.nakatai.net ｜ E-mail：hitoshi@nakatai.net ｜ Facebook：www.facebook.com/hitoshi.nakatai

Website
中平ひとし事務所

HITOSHINAKATAI